

ノボル鋼鉄

静岡支店の新熱処理工場

12月に着工へ

ノボル鋼鉄の19年6月期

経常56%減、550万円

ノボル鋼鉄（本社・東京都千代田区、社長・三上晃史氏）は静岡支店・熱処理センター（静岡市駿河区）の大型

リフレッシュ投資の中核となる新熱処理工場建設について12月着工、2020年7月完成を予定している。ただ足元の市場環境が厳しく不透明感も増しているため、着工時期は慎重に見極めていく。

静岡支店のリフレッシュは総額15億円の大規模投資で熱処理工場、鋼材倉庫、事務所棟の

刷新、レイアウト変更などを行うもので、新事務所棟は18年2月末に完成している。新熱処理センターは新鋭設備をライン化し、高効率で労働環境にも配慮した仕様とする。

19年6月期では、これに先立ち切断・機械加工設備の増設を実施した。仙台支店でNC帯鋸盤を1台増設し、福島テクニカルセンターでNCフライス盤1台、縦型マシニングセンター1台を増設、宮城テクニカルセンターでNCフライス盤1台を増設した。この切断・機械加工設備の投資額は4400万円。

ノボル鋼鉄の19年6月期単独決算は、売上高68億4900万円で前期比3・9%増、経常利益5500万円で同56・3%減、純利益2400万円で同40%減の増収減益となった。増収は3期連続で、売上高は前期に続き2期連続でリーマンショック後の最高を記録した。

月次売上高は19年2月まで27カ月連続で前年同月を上回ったが、3月以降は前年同月比マイナスが続いている。7～9月は前年同月比2割減のペースであり、静岡支店の新工場着工は今後の市場環境や受注状況を見極めながら着手する。

経常減益は銀行借入をシンジケートローンに変更したことによる手数料増が主因。借入を運転資金と設備資金に分け、運転資金に枠を設けたことで、将来の資金調達力が増した。手数料は一時的に増加したが、トータルコストでは通常借入よりも金利が下がるため財務体質強化につなが

る。これによる手数料増が5千万円、賞与支出増が2千万円で、この合計7千万円が経常減益幅とほぼ同額になる。

ノボル精密、ノボルエンジニアリングと合わせたグループ全体では前期売上高は84億5100万円で同4・3%増となった。長期的には、グループ売上高で100億円を目指す。なお、期末の直接雇用者数は前期末比6人増の125人。この間の新規採用は13人だった。

今期の単独業績目標は売上高70億円、経常利益2億円に置いている。

役員人事

（カッコ内は旧職）

ノボル鋼鉄

（9月2日付）

【昇格】

▽常務静岡支店長（取締役静岡支店長）

三上裕介